

「子どもの笑顔と未来を育む税」

姫路市立東中学校3年 生頼 佳子

二年前の四月、私達は中学校に入学した。新生活の始まりに緊張する中、沢山の教科書を受け取った。その一冊一冊のボリュームと、総重量から、これからスタートする中学校の学習量に圧倒されたことを覚えている。

それから新年度を迎える度、大量の教科書の配布と同時に、「こんなにも沢山の教科書を、全て税金によってもらっているんだ。」と思い、私達の生活と多くの方が納めた税金が直接結びついているのだと実感するのだ。

そして、出来るだけ丁寧に名前を記入していく。その瞬間に、大切な税金によって作られた教科書が私達の教科書になったという気持ちになり、中学生になった自覚と誇りや、進級の喜びが湧いてきた。

多くの物に恵まれた学校生活の中で、私達が名前を記入して使える教科書は特別な存在だと思う。毎日使う机や椅子も貸してもらっているのに対し、教科書は一人ひとりに与えられている物だからだ。それにより、書き込んだりと自由に工夫して使うことが許される。このことは、未来の日本を担う私達子どもへの期待と、成長と幸せを願っているというメッセージのように感じている。

また、校舎などの学習環境を整備するにも、多額の費用が必要になる。私達が入学してから、校舎の改修が行われた。外壁補修により、街の景観までもより美しくなり、登校する時の気持ちもより弾んでいる。

美しくより良くなった設備は、毎日を快適にしてくれるだけでなく、恵まれた環境を与えてもらったことによって、「もっと頑張ろう」という前向きな気持ちも与えてくれた。設備の充実は、災害時の避難場所としての学校の機能や、避難した際の過ごしやすさが増すことになり、私達近隣住民の日々の安心に繋がっている。

私達は、約半年後には中学校を卒業する。つまり、義務教育を終了する。これまでの義務教育の約九年間を振り返ると、学校に通わなければ味わうことの出来ない経験が沢山あり、本当に数え切れない程の大切なことを教えてもらった。

それによって、自分達で考えたり、時には悩んだりしながらも、楽しくみんな成長出来たと感じる。そんな学校は、私達にとって「社会」そのものである。こんなにも大切な存在である学校を築き、維持出来ているのは他にもない税金のおかげだ。学校に子どもを通わせている家庭の負担だけでは到底維持出来ない存在である学校で、日々の学びを通して未来を見つめて、希望を持てるようになっていった。

この喜びや感謝の気持ちを、ずっと忘れたくない。私達がしてもらったように、未来の子ども達にも、良い学びの環境を繋げていけるように、私も将来夢を実現して働いていく中で、働く喜びや意義の一つとして、バトンを受け継いでいきたい。